

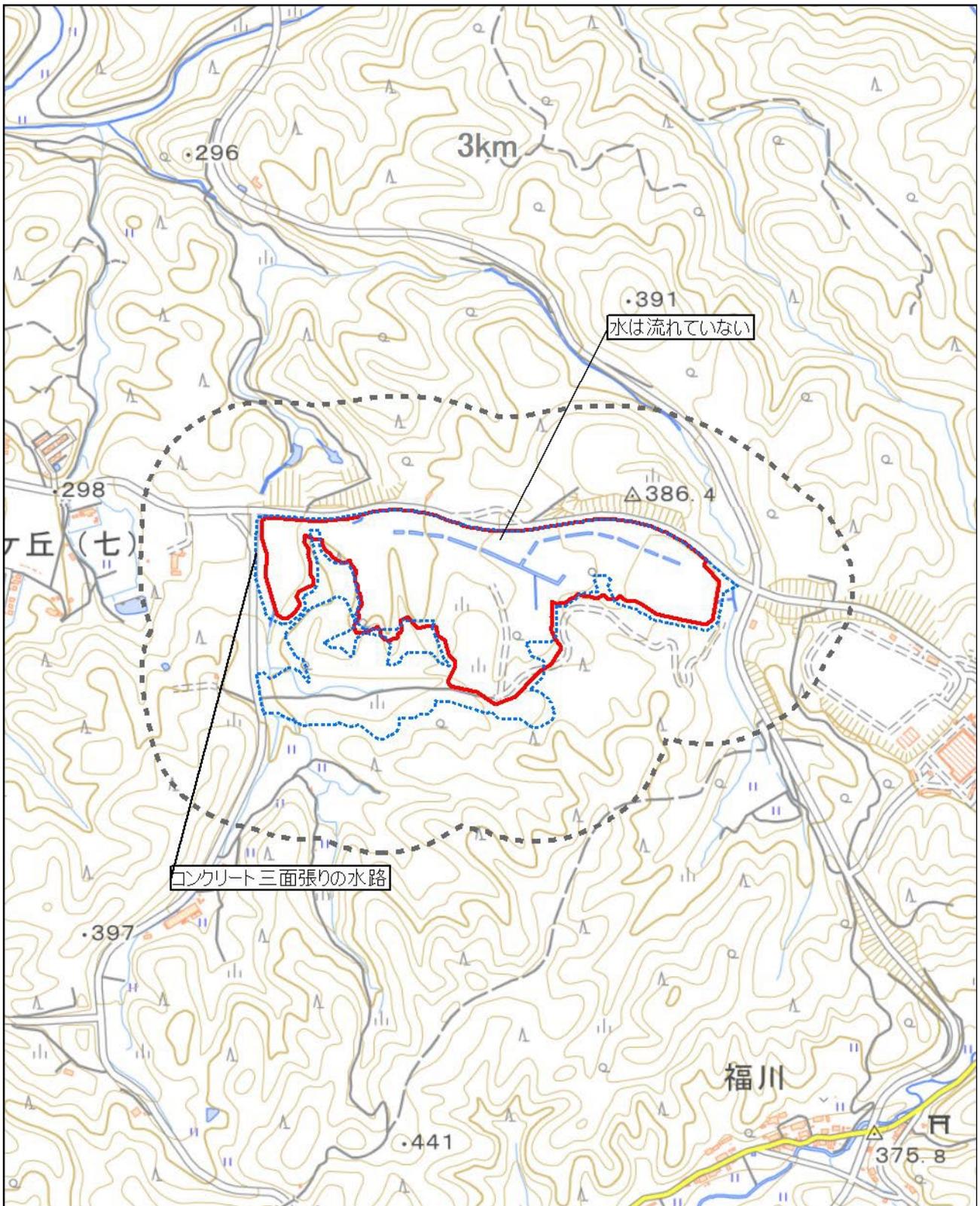
6.8 陸生動物

6.8.1 調査概要

陸生動物については、既存文献により準対象事業実施区域及びその周囲における重要な種の分布を把握した。調査範囲は図 6.8.1-1 に示す準対象事業実施区域から 200m の範囲とした。

既存文献による調査は、「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(2015 年、三重県農林水産部みどり共生推進課)、「伊賀のレッドデータブック～伊賀の希少動植物～」(2006 年、伊賀市環境保全市民会議、伊賀のレッドデータブック制作委員会)、「三重県その自然と動物」(1986 年、三重県その自然と動物編集委員会、三重県良書出版会)、「三重の生物：日本生物教育会第 49 回全国大会三重大会記念誌」(1994 年、三重生物教育会)、「三重県におけるコウモリ類の分布記録」(2016 年佐野明、三重県総合博物館研究紀要)、「みえ生物誌」(2018 年、三重自然誌の会)により、準対象事業実施区域が位置する伊賀市において生息が推定される重要な種を把握した。重要な種の選定基準は、表 6.8.1-1 に示すとおりである。

なお、三重県農林水産部みどり共生推進課との協議により、2024 年夏季に昆虫類の現地調査を行った。



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 調査範囲



0 400 m

1:10,000

図 6.8.1-1 調査対象範囲

表 6.8.1-1 重要な種の選定基準

番号	選定根拠	記号
①	「文化財保護法」 (昭和 25 年法律第 214 号) 「三重県文化財保護条例」 (昭和 32 年三重県条例第 72 号) 「伊賀市文化財保護条例」 (平成 16 年条例第 271 号)	国天：天然記念物 特天：特別天然記念物 県天：県天然記念物 市天：市天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年法律第 75 号)	国内：国内希少野生動植物種 第一国内：特定第一種国内希少野生動植物種 第二国内：特定第二種国内希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020」 (令和 2 年、環境省報道発表資料)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(平成 27 年、三重県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
⑤	三重県自然環境保全条例 (平成 15 年三重県条例第 2 号)	希少：三重県指定希少野生動物種
⑥	「伊賀のレッドデータブック 2006～伊賀の希少動植物～」 (平成 18 年、伊賀市環境保全市民会議)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
⑦	「近畿地区・鳥類レッドデータブック —絶滅危惧種判定システムの開発—」(2002 年、山岸哲)	繁：繁殖個体群 1：危機的絶滅危惧 2：絶滅危惧 3：準絶滅危惧 冬：越冬個体群 1：危機的絶滅危惧 2：絶滅危惧 3：準絶滅危惧 4：要注目 通：通過個体群 1：危機的絶滅危惧 2：絶滅危惧 3：準絶滅危惧 4：要注目

6.8.2 文献調査

準対象事業実施区域及びその周囲における重要な種の分布状況は、「3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況」に示すとおりである。

重要な種のうち、準対象事業実施区域が位置する伊賀市において生息が推定される重要な種を、「三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」（2015年、三重県農林水産部みどり共生推進課）、「伊賀のレッドデータブック～伊賀の希少動植物～」（2006年、伊賀市環境保全市民会議、伊賀のレッドデータブック制作委員会）、「三重県その自然と動物」（1986年、三重県その自然と動物編集委員会、三重県良書出版会）、「三重の生物：日本生物教育会第49回全国大会三重大会記念誌」（1994年、三重生物教育会）、「三重県におけるコウモリ類の分布記録」（2016年佐野明、三重県総合博物館研究紀要）、「みえ生物誌」（2018年、三重自然誌の会）に基づき抽出した。

対象とした種は伊賀市に生息が確認された重要種とした。

準対象事業実施区域において生息が推定される重要な種は、表 6.8.2-1 に示すとおりである。

文献調査の結果、伊賀市においては、哺乳類 5 種、鳥類 42 種、爬虫類 5 種、両生類 15 種、昆虫類 150 種、クモ類 17 種、淡水貝類・陸産貝類 14 種、淡水魚類 14 種の重要な種の生息が推定された。

表 6.8.2-1(1) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種（哺乳類）

No.	目和名	科和名	種和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 条例	伊賀市 RDB2006
1	齧歯	リス	ニホンリス				NT		NT
2			ムササビ						EN
3	食肉	クマ	ツキノワグマ		国際	LP	EN	希少	
4		イタチ	ニホンアナグマ						DD
5	偶蹄	ウシ	カモシカ	特天		LP	VU		
—	3 目	4 科	5 種	1 種	1 種	2 種	3 種	1 種	3 種

表 6.8.2-1(2) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種（鳥類）

No.	目和名	科和名	種和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 条例	伊賀市 RDB2006	近畿 RDB2002		
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	DD		DD	1:冬		
2			ヤマドリ				NT		NT			
3	カモ	カモ	オシドリ			DD	EN(繁殖) NT(越冬)		NT	3:繁		
4			トモエガモ			VU	EN					
5	ペリカン	サギ	ミゾゴイ			VU	VU			2:繁		
6			チュウサギ			NT	VU		VU	3:繁		
7	ツル	クイナ	ヒクイナ			NT	VU		DD	2:繁		
8	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	DD		DD	2:繁		
9	チドリ	チドリ	タゲリ				NT		DD	3:冬		
10			イカルチドリ					VU		VU	3:繁	
11			コチドリ						NT		3:繁	
12			シロチドリ				VU	CR(繁殖) NT(越冬)	希少		3:繁	
13			タマシギ	タマシギ			VU	NT		DD	2:繁	
14	タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	NT(繁殖) VU(越冬)			2:繁		
15		タカ	ハチクマ			NT	EN		EN	2:繁		
16			チュウヒ		国内	EN	CR(繁殖) VU(越冬)		VU	1:繁		
17			ハイロチュウヒ					VU		VU	2:冬	
18			ハイタカ				NT	NT		VU	4:繁	
19			オオタカ				NT	VU		CR	3:繁	
20			サシバ				VU	EN	希少	VU	2:繁	
21			イヌワシ		国天	国内	EN	CR		DD	1:繁	
22			クマタカ			国内	EN	EN		CR	2:繁	
23			フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				DD		DD	2:繁
24					コノハズク				VU		DD	2:繁
25					フクロウ					NT		NT
26	アオバズク							VU		NT	3:繁	
27	コミミズク									NT	2:冬	
28	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				VU		VU	2:繁		
29			ヤマセミ				NT			3:繁		
30	キツツキ	キツツキ	オオアカゲラ				VU		EN	3:繁		
31			アオゲラ						NT	3:繁		
32	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ						NT	3:冬		
33			ハヤブサ		国内	VU	CR(繁殖) EN(越冬)		CR	3:繁		
34	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			VU	VU			3:繁		
35		カササギヒタキ	サンコウチョウ				NT		NT	3:繁		
36		キクイタダキ	キクイタダキ				VU		VU	3:冬		
37		ムシクイ	センダイムシクイ				NT			3:繁		
38		ヒタキ	ヒタキ	クロツグミ				NT		VU	3:繁	
39				エゾビタキ							DD	3:通
40				サメビタキ							DD	
41				コサメビタキ					DD		DD	
42				キビタキ					NT		NT	3:繁
43				オオルリ							NT	3:繁
44				ホオジロ	ホオジロ	ノジコ			NT			DD
45		クロジ								VU	3:繁	
—		12 目	19 科	45 種	1 種	4 種	20 種	37 種	2 種	37 種	41 種	

表 6.8.2-1 (3) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種（爬虫類）

No.	目和名	科和名	種和名	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	伊賀市 RDB2006
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ	NT		NT
2		スッポン	ニホンスッポン	DD	DD	DD
3	有鱗	トカゲ	ニホントカゲ			DD
4		ナミヘビ	タカチホヘビ			DD
5			シロマダラ			DD
—	2 目	4 科	5 種	2 種	1 種	5 種

表 6.8.2-1 (4) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種（両生類）

No.	目和名	科和名	種和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	伊賀市 RDB2006
1	有尾	サンショウウオ	ヤマトサンショウウオ ^{注3)}		第二 国内	VU	VU	EN
2			ヒダサンショウウオ			NT	VU	EN
3			ハコネサンショウウオ				VU	CR
4		オオサンショウウオ	オオサンショウウオ	特天		VU	VU	EN
5		イモリ	アカハライモリ			NT		VU
6	無尾	ヒキガエル	ナガレヒキガエル					EN
7			ニホンヒキガエル				NT	VU
8		アカガエル	ナガレタゴガエル				NT	EN
9			ニホンアカガエル			NT		VU
10			ヤマアカガエル					NT
11			ツチガエル					VU
12			ナゴヤダルマガエル ^{注4)}			EN	VU	EN
13			トノサマガエル			NT		VU
14		アオガエル	モリアオガエル					VU
15			カジカガエル					NT
—	2 目	6 科	15 種	1 種	1 種	7 種	7 種	15 種

表 6.8.2-1(5) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種（昆虫類）

No.	目 and 名	科和名	種和名	天然 記念物	種 の 保 存 法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 条例	伊賀市 RDB2006	
1	トンボ	アオイトトンボ	コバナアオイトトンボ			EN	CR		DD	
2		イトトンボ	ベニイトトンボ			NT	VU		EN	
3			モートンイトトンボ			NT	VU			
4			ムスジイトトンボ						EN	
5			オオイトトンボ						EN	
6			モノサシトンボ	グンバイトンボ			NT	NT		
7		カワトンボ	アオハダトンボ			NT	VU		EN	
8		ムカシトンボ	ムカシトンボ					NT	VU	
9		ヤンマ	アオヤンマ				NT	EN		CR
10			オオルリボシヤンマ							EN
11			ルリボシヤンマ						EN	CR
12			コシボソヤンマ							EN
13		サナエトンボ	ミヤマサナエ							CR
14			キイロサナエ				NT	VU		
15			ヒメクロサナエ						NT	EN
16			ウチワヤンマ							VU
17			ヒメサナエ							EN
18			オジロサナエ							EN
19			オオサカサナエ					VU	CR	
20			タバサナエ					NT	NT	
21			フタスジサナエ					NT	NT	
22			コサナエ						EN	EN
23			オグマサナエ					NT	VU	EN
24		ムカシヤンマ	ムカシヤンマ					NT	EN	
25		エゾトンボ	キイロヤマトンボ				NT	VU		CR
26			ハネヒロエゾトンボ				VU	CR		CR
27			タカネトンボ							DD
28			エゾトンボ							EN
29		トンボ	ベッコウトンボ			国内	CR	EX		EW
30			ヨツボシトンボ							EN
31			ハッチョウトンボ							VU
32			コノシメトンボ							EN
33			キトンボ						EN	EN
34			アキアカネ						NT	
35			ナニワトンボ					VU	CR	CR
36			マダラナニワトンボ					EN	CR	CR
37			ヒメアカネ							CR
38			ミヤマアカネ						NT	
39			リスアカネ							EN
40			ネキトンボ							EN
41	ゴキブリ	オオゴキブリ	オオゴキブリ						VU	
42	バッタ	ササキリモドキ	クロスジコバナササキリモドキ						NT	
43		コオロギ	タンボオカメコオロギ					VU	VU	
44		バッタ	ダイリフキバッタ					EN	NT	
45			ヒメフキバッタ					NT	NT	
46		ヒシバッタ	ノセヒシバッタ					NT		
47	カメムシ	グンバイウンカ	ハウチワウンカ				VU	DD		
48		セミ	チッチゼミ					NT	DD	
49			ハルゼミ							VU
50		アメンボ	オオアメンボ					NT		
51		イトアメンボ	イトアメンボ				VU	EN		

表 6.8.2-1(6) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種（昆虫類）

No.	目と名	科和名	種和名	天然 記念物	種の 保存法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 条例	伊賀市 RDB2006		
52	カメムシ	ミズムシ	ホッケミズムシ			NT	NT				
53			オオミズムシ			NT			VU		
54			ナガミズムシ			NT	NT				
55			ミヤケミズムシ			NT	NT				
56		コオイムシ	コオイムシ			NT	NT		VU		
57			オオコオイムシ				VU		VU		
58			タガメ			第二 国内	VU	VU		EN	
59		タイコウチ	ヒメミズカマキリ				VU		NT		
60		コバンムシ	コバンムシ			第二 国内	EN	CR		DD	
61		アミメカゲ ロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ				VU		EN	
62	オオツノトンボ						NT			CR	
63	シリアゲム シ	ガガンボモドキ	ホシガガンボモドキ				DD		DD		
64	トビケラ	シンテイトビケ ラ	シンテイトビケラ				CR				
65		アシエダトビケ ラ	クチキトビケラ			NT	DD				
66		ホソバトビケラ	イトウホソバトビケラ					DD			
67		エグリトビケラ	スジトビケラ					CR			
68		チョウ	セセリチョウ	ギンイチモンジセセリ			NT	VU		VU	
69	ミヤマチャバネセセリ							VU			
70	シジミチョウ			オオミドリシジミ					VU		
71			アカシジミ							VU	
72			ウラナミアカシジミ						VU		VU
73			ミドリシジミ								VU
74			クロシジミ				EN	VU			
75			キマダラルリツバメ				NT	CR			DD
76	シルビアシジミ					EN	CR			DD	
77	タテハチョウ		ウラギンスジヒョウモン				VU	EN			
78			オオムラサキ				NT	NT			VU
79			ウラナミジャノメ					VU	EN		
80	アゲハチョウ		ギフチョウ		市天		VU	EN	希少	CR	
81	シロチョウ		ツマグロキチョウ				EN	CR			
82			スジボソヤマキチョウ					CR			DD
83	ハエ	ムシヒキアブ	トラフムシヒキ				NT				
84		ハナアブ	ケンランアリノスアブ				VU	VU		DD	
85		ハチモドキハナアブ						DD			
86	コウチュウ	オサムシ	クロカタビロオサムシ				VU				
87			マイマイカブリ								DD
88			セアカオサムシ				NT	EN			
89			ヒトツメアオゴミムシ				NT	VU			
90			スナハラゴミムシ					VU	DD		
91			アリスアトキリゴミムシ					DD	EN		
92		ハンミョウ	アイヌハンミョウ				NT	NT			
93			ホソハンミョウ					VU	EN		
94			ナミハンミョウ								NT
95		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ				NT	VU			EN
96			ゲンゴロウ				第二 国内	VU	CR		EN
97			コガタノゲンゴロウ					VU	CR		
98			マルガタゲンゴロウ				第二 国内	VU	EN		EN
99			シマゲンゴロウ					NT	NT		
100			マダラシマゲンゴロウ				国内	CR	CR		CR
101	マルケシゲンゴロウ						NT	EN			
102	ケシゲンゴロウ						NT	EN			
103	ヒメケシゲンゴロウ						VU	EN			
104	コウバツブゲンゴロウ						NT	VU			
105	ニセルイスツブゲンゴロウ									DD	
106	ルイスツブゲンゴロウ					VU	EN				
107	シャープツブゲンゴロウ					NT	CR				
108	キベリマメゲンゴロウ					NT	NT				
109	オオヒメゲンゴロウ									VU	
110	ミズスマシ	オオミズスマシ				NT	EN				
111		ミズスマシ					VU	EN			
112	コガシラミズム シ	クロホシコガシラミズムシ					VU	EN			
113		キイロコガシラミズムシ					VU	EN		CR	
114		マダラコガシラミズムシ					VU	VU			
115		コガシラミズムシ									VU

表 6.8.2-1(7) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種(昆虫類)

No.	目 and 名	科 and 名	種 and 名	天然 記念物	種 の 保 存 法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 条例	伊賀市 RDB2006		
116	コウチュウ	ガムシ	スジヒラタガムシ			NT	DD				
117			コガムシ			DD	NT				
118			エゾコガムシ			NT	EN				
119			ガムシ			NT	NT				
120		シデムシ	ヤマトモンシデムシ			NT	VU				
121		クワガタムシ		オオクワガタ			VU	CR		DD	
122				ヒラタクワガタ						EN	
123		コガネムシ		アカマダラコガネ			DD	NT			
124				マルツヤマグソコガネ				NT			
125				ヤマトエンマコガネ			NT	CR		CR	
126				キョウトアオハナムグリ				VU			
127		コブスジコガネ ムシ	ヘリトゲコブスジコガネ				VU				
128		タマムシ		タマムシ						NT	
129				クロコモンタマムシ(ヤノコ モンタマムシ)				VU			
130				クロマダラタマムシ				VU			
131		ホタル	ヒメボタル						DD		
132		ツチハンミョウ	マルクビツチハンミョウ					EN			
133		アカハネムシ	ヘリハネムシ					NT			
134		カミキリムシ		ヨコヤマヒゲナガカミキリ				EN			
135				クビアカハナカミキリ				VU			
136				ヨツボシカミキリ			EN	CR			
137				モモグロハナカミキリ				CR			
138		ハムシ		キンイロネクイハムシ			NT	CR		EN	
139				ガガブタネクイハムシ				VU			
140				ツヤネクイハムシ				EN		NT	
141		ゾウムシ		カギアシゾウムシ				DD			
142				ババサゲヒメゾウムシ				CR			
143		ハチ	コンボウハバチ	ホシアシブトハバチ			DD	NT			
144				ナシアシブトハバチ				CR			
145			アリ		ケブカツヤオオアリ			DD	DD		
146					モリシタカギバラアリ				DD		
147			スズメバチ	モンズズメバチ			DD	NT			
148			ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ			VU	EN			
149			アナバチ	フクイアナバチ			NT	DD			
150			ミツバチ	クロマルハナバチ			NT	NT			
—		11 目	59 科	150 種	1 種	6 種	77 種	119 種	1 種	75 種	

表 6.8.2-1(8) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種(クモ類)

No.	目 and 名	科 and 名	種 and 名	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	伊賀市 RDB2006		
1	クモ	ジグモ	ワスレナグモ	NT	NT			
2			トタテグモ	キノボリトタテグモ	NT	NT		
3			ヤマシログモ	ユカタヤマシログモ			DD	
4			ホラヒメグモ	ヤマトホラヒメグモ		VU		
5			コガネグモ		キジロオヒキグモ		DD	
6					ニシキオニグモ		DD	
7					オニグモ		NT	
8					コガネグモ		NT	
9					トゲグモ		VU	
10					ナカムラオニグモ			
11			コモリグモ	イサゴコモリグモ		NT		
12			サシアシグモ	シノビグモ		NT	VU	
13			ネコグモ	オビジガバチグモ		DD		
14			イツツグモ	ナガイツツグモ		DD		
15			アワセグモ	アワセグモ		NT		
16			カニグモ	アシナガカニグモ		NT		
17			イトグモ	イトグモ			DD	
—	1 目	12 科	17 種	2 種	14 種	4 種		

表 6.8.2-1(9) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種
(淡水貝類・陸産貝類)

No.	科和名	種和名	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	伊賀市 RDB2006
1	タニシ	マルタニシ	VU	VU	NT
2		オオタニシ	NT		NT
3	カワニナ	クロダカワニナ	NT	NT	VU
4	モノアラガイ	モノアラガイ	NT	NT	VU
5	オカモノアラガイ	ナガオカモノアラガイ	NT	NT	
6	キセルガイ	ハゲギセル		NT	
7	シタラ	スジキビ	NT	NT	
8	ナンバンマイマイ	シメクチマイマイ		NT	
9	オナジマイマイ	クチマガリマイマイ	NT	NT	
10		イブキクロイワマイマイ		NT	
11	イシガイ	ドブガイ			NT
12		マツカサガイ	NT		DD
13		トンガリササノハガイ			VU
14	ドブシジミ	ドブシジミ		NT	DD
—	10 科	14 種	8 種	10 種	8 種

表 6.8.2-1(10) 準対象事業実施区域及びその周囲で生息が推定される重要な種 (淡水魚類)

No.	目 and 名	科和名	種和名	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 条例	伊賀市 RDB2006
1	ヤツメ ウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ	VU	VU		VU
2	コイ	コイ	アブラボテ	NT	EN		EN
3			イチモンジタナゴ	CR	CR		DD
4			ニッポンバラタナゴ	CR			CR
5			カワバタモロコ	EN	CR	希少	EN
6			ズナガニゴイ		EN		DD
7			イトモロコ		VU		DD
8			ドジョウ	ドジョウ	NT		
9		アジメドジョウ		VU	EN		CR
10		ホトケドジョウ		EN	VU		CR
11		ナマズ	アカザ	アカザ	VU	VU	
12	サケ	サケ	サツキマス (アマゴ)	NT			EW
13	ダツ	メダカ	ミナミメダカ ^{注3)}	VU	NT		VU
14	スズキ	カジカ	カジカ	NT	VU		VU
—	6 目	7 科	14 種	12 種	11 種	1 種	14 種

6.8.3 現地調査

(1) 昆虫類の状況

(a) 調査方法

調査方法は一般採集調査とした。調査地域を任意に踏査し捕虫網により草本類に生息する種を採集するスウィーピング法、木本に生息する種を竿でマットに叩き落とすビーティング法、目撃した種を採集する見つけ採り法により実施した。

(b) 調査地域

調査範囲は図 6.8.1-1 に示すとおりである。準対象事業実施区域及びその周囲 200m の範囲とした。

(c) 調査期間

調査期間は以下のとおりである。

夏季（2024年7月29日）

(d) 調査結果

① 昆虫類相の状況

昆虫類の現地調査の結果、8目82科156種を確認した。

昆虫類目別構成一覧は表 6.8.3-1 に示すとおりである。また、確認種一覧は表 6.8.3-2 に示すとおりである。

表 6.8.3-1 昆虫類目別構成一覧

No.	目名	合計	
		科数	種数
1	トンボ（蜻蛉）	5	14
2	バッタ（直翅）	3	7
3	カメムシ（半翅）	20	37
4	アミメカゲロウ（脈翅）	3	5
5	チョウ（鱗翅）	7	9
6	ハエ（双翅）	9	11
7	コウチュウ（鞘翅）	26	50
8	ハチ（膜翅）	9	23
計	8目	82科	158種

表 6.8.3-2(1) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名
1	トンボ (蜻蛉)	アオイトトンボ	ホソミオツネントンボ
2			アオイトトンボ
3		イトトンボ	キイトトンボ
4			アオモンイトトンボ
5		モノサシトンボ	モノサシトンボ
6		カワトンボ	ハグロトンボ
7	トンボ	トンボ	ショウジョウトンボ
8			ハラビロトンボ
9			ハッチョウトンボ
10			シオカラトンボ
11			オオシオカラトンボ
12			チョウトンボ
13			ナツアカネ
14			マユタテアカネ
15	バッタ (直翅)	マツムシ	アオマツムシ
16		バッタ	ショウリョウバッタ
17			ヒナバッタ
18			ツマグロバッタ
-			バッタ科
19		ヒシバッタ	トゲヒシバッタ
20	モリヒシバッタ		
21	カメムシ (半翅)	ウンカ	コブウンカ
22		アオバハゴロモ	アオバハゴロモ
23		ハゴロモ	アミガサハゴロモ
24		グンバイウンカ	ヒラタグンバイウンカ
25			ハウチワウンカ
26		セミ	クマゼミ
27			アブラゼミ
28			ニイニイゼミ
29			ヒグラシ
30		アワフキムシ	マツアワフキ
31			ハマベアワフキ
32			オカダアワフキ
33		コガシラアワフキムシ	コガシラアワフキ
34		ヨコバイ	フタスジトガリヨコバイ
35			Pagaronia 属
-			ヨコバイ科
36		カスミカメムシ	ズアカシダカスミカメ
37			クロキノコカスミカメ
38			Sejanus 属
39		ヘリカメムシ	オオツマキヘリカメムシ
40		ヒメヘリカメムシ	コブチヒメヘリカメムシ
41		ナガカメムシ	ホソメダカナガカメムシ
42			ヒゲナガカメムシ
43			ヤスマツナガカメムシ
44		ツノカメムシ	ヒメツノカメムシ
45			エサキモンキツノカメムシ
46		カメムシ	クサギカメムシ
47	チャバネアオカメムシ		

表 6.8.3-2 (2) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	
48		マルカメムシ	マルカメムシ	
48		マルカメムシ	マルカメムシ	
49		アメンボ		オオアメンボ
50				ヒメアメンボ
51			シマアメンボ	
52		ミズムシ (昆)	ヒメコミズムシ	
53		コオイムシ	オオコオイムシ	
54		タイコウチ	タイコウチ	
55		マツモムシ		コマツモムシ
56				マツモムシ
57		アミメカゲロウ (脈翅)	クサカゲロウ	シロスジクサカゲロウ
58				アミメクサカゲロウ
59				マツムラクサカゲロウ
60	ツノトンボ		ツノトンボ科	
61	ウスバカゲロウ		ウスバカゲロウ	
62	チョウ (鱗翅)	ハマキガ	ハマキガ科	
63		シジミチョウ	ベニシジミ	
64		タテハチョウ	ジャノメチョウ	
65			アカタテハ	
66		シロチョウ	キタキチョウ	
67		ツトガ	シロテンウスグロノメイガ	
68			キホソノメイガ本州・四国・九州亜種	
69		アゲハモドキガ	キンモンガ	
70		シャクガ	ベニヒメシャク	
71		ハエ (双翅)	ヒメガガンボ	ヒメガガンボ科
72	クロバネキノコバエ		クロバネキノコバエ科	
73	アブ			アカウシアブ
74				ウシアブ
-			アブ属	
77	ムシヒキアブ		シオヤアブ	
78	アシナガバエ		Condylostylus 属	
79	ハナアブ			オオヒメヒラタアブ
80				キゴシハナアブ
81	ショウジョウバエ		ショウジョウバエ科	
82	ミギワバエ		ミギワバエ科	
83	ヤチバエ		ヒガシヒゲナガヤチバエ	
84	コウチュウ (鞘翅)		オサムシ	ミズギワアトキリゴミムシ
85				ベーツホソアトキリゴミムシ
86		ゲンゴロウ	ハイイロゲンゴロウ	
87		ヒゲブトオサムシ	エグリゴミムシ	
88		ガムシ		スジヒラタガムシ
89				ミュキシジミガムシ
90		エンママムシ	オオヒラタエンママムシ	
91		ハネカクシ		ヘリアカデオキノコムシ
92				クリイロキシデオキノコムシ
-				Scaphisoma 属
93			Stenus 属	
94		クワガタムシ		コクワガタ
95				スジクワガタ
96				ノコギリクワガタ

表 6.8.3-2(3) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名
97	クワガタムシ	コガネムシ	セマダラコガネ
98			マメコガネ
99			カナブン
100		ヒラタドロムシ	ホンシュウチビマルヒゲナガハナノミ
101		タマムシ	ウバタマムシ
102		コメツキムシ	チャイロコメツキ
103			オオナガコメツキ
104		コメツキダマシ	Clypeorhagus 属
105		ヒョウホンムシ	ケジロヒョウホンムシ
106		ジョウカイモドキ	ヒロオビジョウカイモドキ
107		テントウムシ	フタモンクロテントウ
108			キイロテントウ
109			ヨツボシテントウ
110			カワムラヒメテントウ
111	オオクスイムシ	ヨツボシオオクスイ	
112	ケシクスイ	ナガコゲチャケシクスイ	
113		ルイスコオニケシクスイ	
114		キボシコオニケシクスイ	
115		ヨツボシケシクスイ	
116	ヒメキノコムシ	Sphindus 属	
117	ニセクビボソムシ	マダラニセクビボソムシ	
118	ナガクチキムシ	ヨツボシヒメナガクチキ	
119	ハナノミ	Pseudomordellina 属	
120	ゴミムシダマシ	コマルキマワリ	
121		ヒメナガニジゴミムシダマシ	
122		モンキゴミムシダマシ	
123		ニホンキマワリ本土亜種	
124		カミキリムシ	アカハナカミキリ
125		ウスイロトラカミキリ	
126	ハムシ	サメハダツブノミハムシ	
127		ウスイロサルハムシ	
128		ジュウシホシツツハムシ	
129		クロトゲハムシ	
130		ルリハムシ	
131		イチモンジカメノコハムシ	
132	ホソクチゾウムシ	マメホソクチゾウムシ	
133	ゾウムシ	コフキゾウムシ	
134	ハチ (膜翅)	コマユバチ	コマユバチ科
135		ヒメバチ	ヒメバチ科
136		カタビロコバチ	カタビロコバチ科
137		タマゴコバチ	タマゴコバチ科
138		アリ	オオハリアリ
139			クロオオアリ
140			ムネアカオオアリ
141			ウメマツオオアリ
142			ハリプトシリアゲアリ
143			シベリアカタアリ
144			ハヤシクロヤマアリ
145			トビイロケアリ
146			ヒメアリ

表 6.8.3-2(4) 昆虫類確認種一覧

No.	目名	科名	種名	
147		アリ	アミメアリ	
148			ヒラフシアリ	
149			ヒラセムネボソアリ	
150			トビイロシワアリ	
151		スズメバチ	キボシアシナガバチ	
152			オオスズメバチ	
153		クモバチ	オオモンクロクモバチ	
154			ベッコウクモバチ	
155		アリマキバチ	ベッコウヨコバイバチ	
156		アナバチ	サトジガバチ	
計		8 目	82 科	156 種

注1) 種の分類、配列は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和4年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省) 2023年9月14日閲覧に準拠した。

② 重要な種

1) 重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定は、現地調査において確認された種について、法律等の選定基準に基づいて行った。重要な種の選定基準は表 6.8.1-1 に示すとおりである。

2) 重要な昆虫類

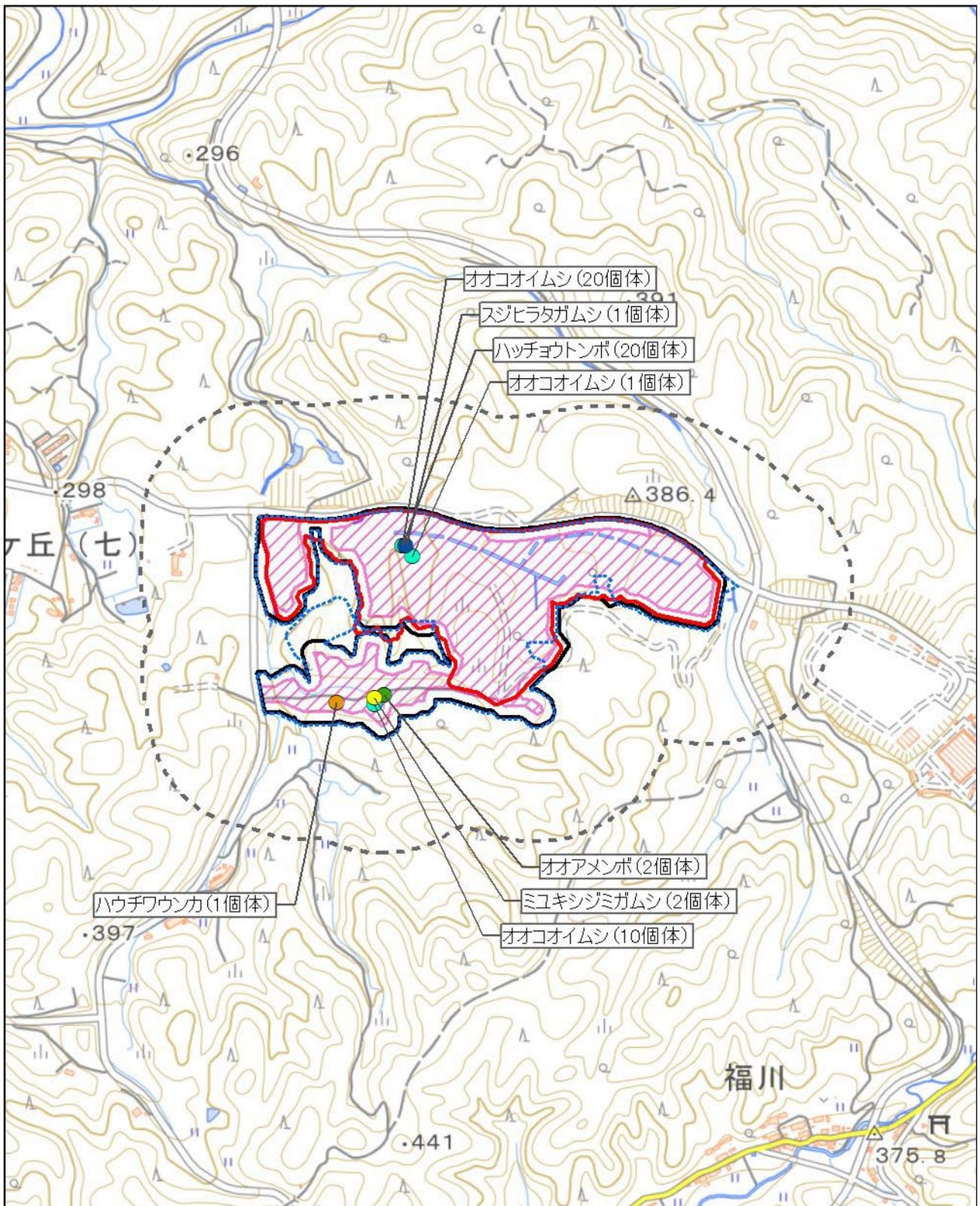
現地調査の結果、準対象事業実施区域及びその周囲において、重要な昆虫類として、3目5科6種を確認した。重要な昆虫類確認種一覧は表 6.8.3-3 に示すとおりである。

表 6.8.3-3 重要な昆虫類の確認種一覧

No.	目名	科名	種名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL2020	三重県 RDB2015	三重県 RDB2024 改定案	三重県 自然環境 保全条例	伊賀市 RDB2006
1	トンボ	トンボ	ハッチョウトンボ							VU
2	カメムシ	グンバイウンカ	ハウチワウンカ			VU	DD	DD		
3		アメンボ	オオアメンボ				NT	NT		
4	コウチュウ	コオイムシ	オオコオイムシ				VU	VU		VU
5		ガムシ	スジヒラタガムシ			NT	DD	DD		
6			ミユキシジミガムシ			NT				
計	3 目	5 科	6 種	0 種	0 種	3 種	4 種	4 種	0 種	2 種

表 6.8.3-4 重要な昆虫類の確認状況

No.	種名	確認 個体数	確認位置内訳			確認状況
			準対象事業実施区域内		準対象事業 実施区域外	
			変更区域内	変更区域外		
1	ハッチョウトンボ	20	20	0	0	一般採集調査により対象事業実施区域内（変更区域内）で20個体を確認した。
2	ハウチワウンカ	1	0	0	1	一般採集調査により対象事業実施区域外で1個体を確認した。
3	オオアメンボ	2	0	0	2	一般採集調査により対象事業実施区域外で2個体を確認した。
4	オオコオイムシ	31	21	0	10	一般採集調査により対象事業実施区域内（変更区域内）で21個体、対象事業実施区域外で10個体を確認した。
5	スジヒラタガムシ	1	1	0	0	一般採集調査により対象事業実施区域内（変更区域内）で1個体を確認した。
6	ミュキシジミガムシ	2	0	0	2	一般採集調査により対象事業実施区域外で2個体を確認した。



凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 改変区域
- 調査範囲

重要種

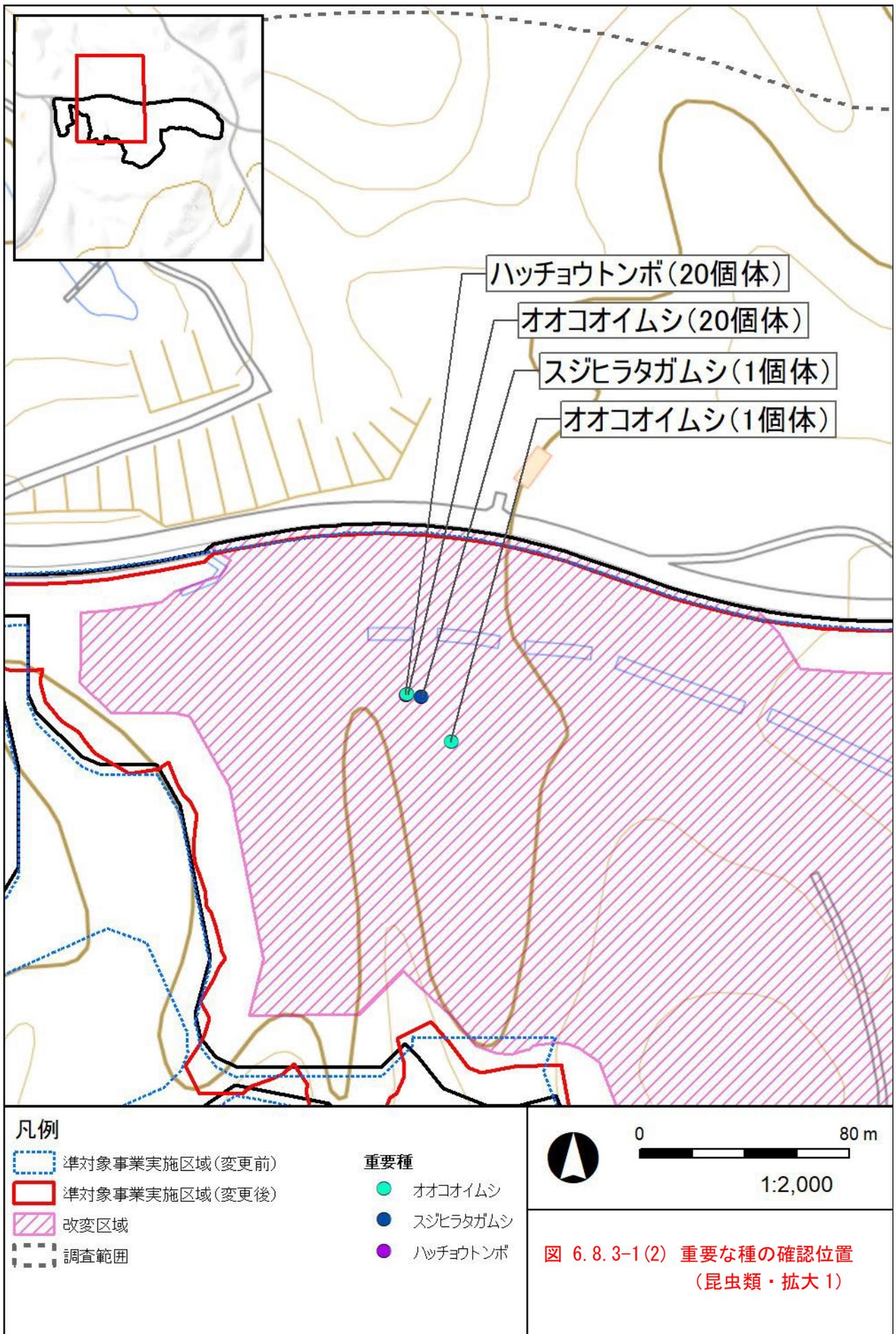
- オオアメンボ
- オオコオイムシ
- スジヒラタガムシ
- ハウチワウンカ
- ハッチョウトンボ
- ミユキシジミガムシ

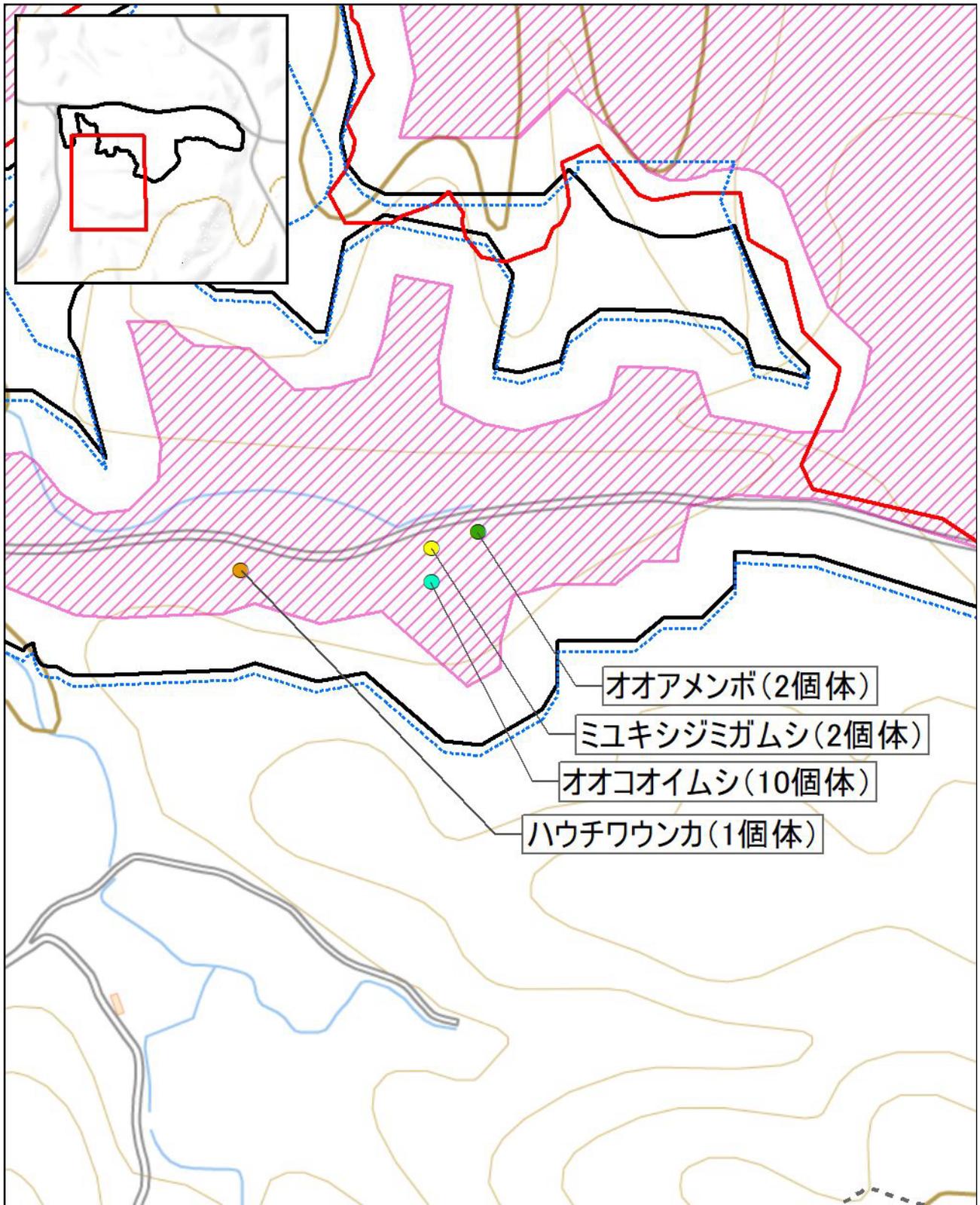


0 400 m

1:10,000

図 6.8.3-1(1) 重要な種の確認位置
(昆虫類)





凡例

- 準対象事業実施区域(変更前)
- 準対象事業実施区域(変更後)
- 改変区域
- 調査範囲

重要種

- オオアメンボ
- オオコオイムシ
- ハウチワウンカ
- ミユキシジミガムシ



0 80 m

1:2,000

図 6.8.3-1(3) 重要な種の確認位置
(昆虫類・拡大2)

6.8.4 予測及び評価の結果

(1) 樹木の伐採及び土地の造成、工作物の存在による影響

(a) 予測内容

陸生動物に係る環境影響の予測内容は表 6.8.4-1 に示すとおりであり、樹木の伐採及び土地の造成による影響、工作物の存在による影響について重要な種への影響を予測した。

表 6.8.4-1 陸生動物に係る予測の概要

影響要因	予測事項	予測項目
工事の実施	樹木の伐採及び土地の造成等による影響	重要な種等及び生息地への影響
施設の供用	工作物の存在による影響	

(b) 予測対象時期

予測対象時期は、重要な種への影響が最大になる時期とし、伐採及び造成工事の範囲が最大となる時期及び工事が完了し供用が開始される時期とした。

(c) 予測地域

予測地域は図 6.8.1-1 に示す準対象事業実施区域から 200m の範囲とした。

(d) 予測方法

予測の対象とする重要な動物種は文献調査により伊賀市において生息が推定される重要な種とした。また、工事の実施については事業計画及び工事の実施に関する類似事例を参考とする方法とし、施設の存在・供用については準対象事業実施区域の生息環境の変化の程度を把握することにより定性的に予測した。

なお、図 6.8.1-1 に示す準対象事業実施区域内を東西に流れる水路には平常時に水はなく、降雨時に水が流れる水路となっている。また、水が流れる水路は西側敷地境界付近を南北に流れる水路があるが、三面張りのコンクリート水路であり、平水時は数センチの水位しかない状況である。



写真 6.8.3-1 西側の水路

(e) 予測結果

重要な種の予測結果は表 6.8.4-2 に示すとおりである。

表 6.8.4-2(1) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
哺乳類	ニホンリス	○	×	準対象事業実施区域内にはアカマツ林が存在しており、本種が生息している可能性がある。本種が生息する可能性がある準対象事業実施区域の樹林が消失する。 また、重機の稼働に伴い発生する騒音・振動により、一時的な忌避行動が起こると予測する。	施設の供用後には準対象事業実施区域の林縁や残置森林を生息地として利用する可能性があるが、施設からの騒音が小さく、人の利用もないことから施設の供用による影響は小さいと予測する。
	ムササビ	×	×	本種の生息環境である広葉樹林は準対象事業実施区域にはほとんど存在しておらず、巣として利用される樹洞のある大木も存在しないことから、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ツキノワグマ	×	×	本種の生息する広葉樹林の分布は少ない範囲であることから、本種の生息環境はほとんどないと考える。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ニホンアナグマ	×	×	準対象事業実施区域には、本種の生息環境である広葉樹林の分布はほとんどないことから、本種の本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	カモシカ	×	×	準対象事業実施区域は生息地に含まれず、また、準対象事業実施区域は主な生息環境である落葉広葉樹林の分布がほとんどないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(2) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
鳥類	ウズラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である草原、農耕地は存在しないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヤマドリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である自然林は存在しないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オシドリ	×	×	繁殖記録は津市美杉町の1箇所であり、準対象事業実施区域内には越冬場所となる河川、湖沼は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	
	トモエガモ	×	×	準対象事業実施区域には本種の生息環境である河川・湖沼は存在しないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ミゾゴイ	×	×	準対象事業実施区域には広葉樹林の分布はほとんどないことから、本種の生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。	
	チュウサギ	×	×	準対象事業実施区域内には、本種の主な生息環境である河川や溪流は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヒクイナ	×	×	準対象事業実施区域内には、本種の主な生息環境であるヨシ原、湿地は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2 (3) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
鳥類	ヨタカ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である草原や灌木が散在するような落葉広葉樹林や管理され臨床が明るい針葉樹林も存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	タゲリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である休耕田、水田、河川は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	イカルチドリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川及び河原は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	コチドリ	×	×	準対象事業実施区域には本種の生息環境である河川・湖沼は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	シロチドリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である砂浜海岸及び干潟が存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	タマシギ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である休耕田などの草の生えた湿地がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ミサゴ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である海岸、大きな河川、湖沼など魚が生息し波静かな水面がある環境が存在しないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハチクマ	○	×	準対象事業実施区域内にはアカマツ林はあるが、営巣木となる大木はないことから、営巣の可能性は低いと考えられるが、行動圏の一部としての利用が考えられる。したがって、工事の実施により行動圏の一部が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動の影響が一時的に発生すると予測する。	準対象事業実施区域の残置森林を餌場として利用することが考えられるが、太陽光発電施設の騒音は小さく、事業の実施による影響は小さいと予測する。
	チュウヒ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広いヨシ原が存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハイイロチュウヒ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿原及び水田が存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハイタカ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うハイタカの生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2 (4) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
鳥類	オオタカ	○	×	準対象事業実施区域内にアカマツ林はあるが、営巣可能な幹の太さではないことから、営巣の可能性は低いと考えられるが、行動圏の一部としての利用が考えられる。したがって、工事の実施により行動圏の一部が減少すると予測する。 なお、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により、忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うオオタカの生息環境への影響は小さいと予測する。
	サシバ	○	×	準対象事業実施区域内にはアカマツ林はあるが、架巢可能な幹の太さではないことから、営巣の可能性は低いと考えられるが、行動圏の一部としての利用が考えられる。したがって、工事の実施により行動圏の一部が減少すると予測する。 なお、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により、忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測した。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うサシバの生息環境への影響は小さいと予測する。
	イヌワシ	×	×	準対象事業実施区域は主な生息地である山岳地ではないことから生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クマタカ	×	×	準対象事業実施区域は主な生息地である山地帯ではないことから生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオコノハズク	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うオオコノハズクの生息環境への影響は小さいと予測する。
	コノハズク	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うコノハズクの生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因: 「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2 (5) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
鳥類	フクロウ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うフクロウの生息環境への影響は小さいと予測する。
	アオバズク	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うアオバズクの生息環境への影響は小さいと予測する。
	コミミズク	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うコミミズクの生息環境への影響は小さいと予測する。
	アカショウビン	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溪流環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヤマセミ	×	×	対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオアカゲラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林が狭い範囲で分布している程度であり、大半はアカマツ林となっていることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アオゲラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林が狭い範囲で分布している程度であり、大半はアカマツ林となっていることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	チョウゲンボウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である伐採跡地が狭い範囲で分布している程度であり、大半はアカマツ林となっていることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハヤブサ	×	×	対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川、湖沼、海岸などの環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	サンショウクイ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うサンショウクイの生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2 (6) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
鳥類	サンコウチョウ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うサンコウチョウの生息環境への影響は小さいと予測する。
	クイタダキ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である高山帯の針葉樹などの環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	センダイムシクイ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林が狭い範囲で分布している程度であり、大半はアカマツ林となっていることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クロツグミ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林が狭い範囲で分布している程度であり、大半はアカマツ林となっていることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	エゾビタキ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うエゾビタキの生息環境への影響は小さいと予測する。
	サメビタキ	×	×	準対象事業実施区域は、本種の生息環境である亜高山帯の針葉樹林又は針広混交林ではないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	コサメビタキ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林が狭い範囲で分布している程度であり、大半はアカマツ林となっていることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キビタキ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うキビタキの生息環境への影響は小さいと予測する。
	オオルリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溪流沿いの広葉樹林がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ノジコ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うノジコの生息環境への影響は小さいと予測する。
クロジ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるブナ林、亜寒帯針葉樹林、越冬地である照葉樹林はなく、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(7) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
爬虫類	ニホンイシガメ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湖沼は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ニホンスッポン	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湖沼、河川は存在しないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ニホントカゲ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うニホントカゲの生息環境への影響は小さいと予測する。
	タカチホヘビ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うタカチホヘビの生息環境への影響は小さいと予測する。
	シロマダラ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うシロマダラの生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(8) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
両生類	ヤマトサンショウウオ ^{注3)}	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヒダサンショウウオ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハコネサンショウウオ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオサンショウウオ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アカハライモリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水田及び池はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。 したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2 (9) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
両生類	ナガレヒキガエル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の溪流及びその周辺の森林などの環境はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ニホンヒキガエル	×	×	準対象事業実施区域は本種の生息環境である山間部及び溪流には位置していないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ナガレタゴガエル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溪流周辺の森林帯などの環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ニホンアカガエル	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うニホンアカガエルの生息環境への影響は小さいと予測する。
	ヤマアカガエル	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うヤマアカガエルの生息環境への影響は小さいと予測する。
	ツチガエル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の水田、池、川、溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ナゴヤダルマガエル ^{注4)}	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水田、沼、川の止水域はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	トノサマガエル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水田、池、河川はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	モリアオガエル	×	×	準対象事業実施区域は産卵する池がないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
カジカガエル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(10) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	コバネアオイトトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である平地や丘陵地の挺水植物の繁茂する池沼や湿地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ベニイトトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物や浮葉植物、沈水植物の繁茂する池沼などはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	モートンイトトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である背丈の低い草が繁茂した浅い滞水のある湿地や水田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ムスジイトトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるヨシやガマ、浮葉植物などが繁茂する池沼、水田はないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオイトトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるヨシやガマ、浮葉植物などが繁茂する池沼、湿地の滞水水田はないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ゲンバイトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である丘陵地のゆるやかな清流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アオハダトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である平地や丘陵地のツルヨシなどの挺水植物や、クロモ、エビ藻などの沈水植物が繁茂している清流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ムカシトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アオヤンマ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である平地のヨシやガマなどが繁茂するやや泥深い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオルリボシヤンマ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ルリボシヤンマ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿原の滞水、高地の挺水植物の繁茂する池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	コシボソヤンマ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川及び河畔林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ミヤマサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である尾根筋の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キイロサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である流れの緩やかな小川はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヒメクロサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間の森林に囲まれた細い溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ウチワヤンマ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物や浮葉植物の繁茂する池沼などはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(11) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	ヒメサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間の溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オジロサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物が繁茂する清流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオサカサナエ	×	×	準対象事業実施内を流れる水域は三面張りの水路しか存在しないことから、本種の生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	タバサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である灌漑水路や溜池はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	フタスジサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溜池はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	コサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物が繁茂する池沼や湿地の滞水はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オグマサナエ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物が繁茂する池沼や湛水されている谷津田や小川はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ムカシヤンマ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である低山地や山地の湿地や斜面の湧水地から水がしたたり落ちる場所はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キイロヤマトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水質の良いきれいな砂の多い河川の中流域で、河畔林が発達した場所はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハネビロエゾトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である丘陵地や低山地の湿地、湿原の細い清流、湧き水のある挺水植物が繁茂する緩流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	タカネトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である丘陵地や低山地の森林に囲まれた薄暗い植物性沈積物の多い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	エゾトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間の湿地や沼沢地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ベッコウトンボ	×	×	準対象事業実施区域には本種の生息環境である挺水植物が繁茂している池沼・湿地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響はないと予測する。	
	ヨツボシトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である平地の挺水植物の繁茂する池沼、湿原、湿地の水たまりはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ハッチョウトンボ	○	×	現地調査において準対象事業実施区域内（改変区域）で20個体が確認された。本種は体長の小さなトンボで、飛翔能力も弱いため、他の生息地に移動することが困難であることから、環境保全措置として準対象事業区域外の適切な生息環境への移設を要する。		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(12) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	コノシメトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である丘陵地や低山地の挺水植物が繁茂する池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である低山地の森林に囲まれた挺水植物・浮葉植物が繁茂するやや大きくて深い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アキアカネ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である低山地の水田や池沼などの挺水植物の繁茂する止水はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ナニワトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物の繁茂する浅い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	マダラナニワトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である挺水植物の繁茂する浅い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヒメアカネ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である背丈の低い水生植物が繁茂する湿原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ミヤマアカネ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水田や湿原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	リスアカネ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である森林に覆われた植物性沈積物の多い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ネキトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である低山地の森林に囲まれた挺水植物・浮葉植物が繁茂するやや大きくて深い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオゴキブリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である大木のある森はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クロスジコバネササキリモドキ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である大木のある広葉樹林は狭い範囲でしかなく、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	タンボオカメコオロギ	×	×	準対象事業実施区域には、本種の生息環境である水田周辺の草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ダイリフキバツタ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である落葉広葉樹林が狭い範囲にしかないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、準対象事業実施区域内には本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヒメフキバツタ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林の林縁は狭い範囲にしかないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ノセヒシバツタ	×	×	準対象事業実施区域は本種の生息環境である山地ではないことから、本種の生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ハウチワウンカ	×	×	現地調査において1個体が確認されたが、準対象事業実施区域外である。本種の主な生息環境である樹林地の一部が減少するが、残置森林部や区域外の周辺森林など樹林地が広く分布していることから、本種の生息環境への影響は小さいと予測する。		

注) 影響要因: 「○」 影響が考えられる 「×」 著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(13) 重要な種の予測結果

種名	影響要因		影響の概要	
	工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
チッチゼミ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性があるアカマツ林、スギ・ヒノキ林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うチッチゼミの生息環境への影響は小さいと予測する。
ハルゼミ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性があるアカマツ林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。また、建設機械の稼働に伴い発生する騒音・振動により忌避行動等の影響が一時的に発生すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられる。また、太陽光発電設備機器の騒音は小さいことから事業の実施に伴うハルゼミの生息環境への影響は小さいと予測する。
オオアメンボ	×	×	現地調査において2個体が確認されたが、準対象事業実施区域外である。準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿性休耕田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
イトアメンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿性休耕田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ホッケミズムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
オオミズムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水草の多い浅い水辺はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ナガミズムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である川のワンド、池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ミヤケミズムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間部の水田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
コオイムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間部の池や水田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
オオコオイムシ	×	×	現地調査において準対象事業実施区域内（改変区域）で21個体が確認されたが、周辺の区域外においても10個体を確認している。本種については区域外にも生息環境（山間部の池や水田）があり、個体としての移動能力も有することから、生息環境への影響は小さいと予測する。	
タガメ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である浅い止水域はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ヒメミズカマキリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である浅い止水域はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(14) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	コバナムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である抽水植物やヒシなどの浮葉植物が繁茂する浅い池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キバネツノトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオツノトンボ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ホシガガンボモドキ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河畔林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	シンテイトビケラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溜池はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クチキトビケラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地溪流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	イトウホソバトビケラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地および低地の細流はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	スジトビケラ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地の止水域はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ギンイチモンジセセリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ミヤマチャバネセセリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオミドリシジミ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、事業の実施に伴うオオミドリシジミの生息環境への影響は小さいと予測する
	アカシジミ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある広葉樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、事業の実施に伴うアカシジミの生息環境への影響は小さいと予測する。
	ウラナミアカシジミ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある広葉樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、事業の実施に伴うウラナミアカシジミの生息環境への影響は小さいと予測する。
	ミドリシジミ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(15) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	クロシジミ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある広葉樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、事業の実施に伴うクロシジミの生息環境への影響は小さいと予測する。
	キマダラルリツバメ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある広葉樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、事業の実施に伴うキマダラルリツバメの生息環境への影響は小さいと予測する。
	シルビアシジミ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるシバ草原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ウラギンスジヒョウモン	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿地性の草原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオムラサキ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河畔林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ウラナミジャノメ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある広葉樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、事業の実施に伴うウラナミジャノメの生息環境への影響は小さいと予測する。
	ギフチョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である里山環境はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ツマグロキチョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の発生環境である荒地的な草原環境はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	スジボソヤマキチョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息地である山地の溪流沿いの道端や樹林の林縁はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	トラフムシヒキ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の発生環境である自然度の高い海浜、広い河川の草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ケンランアリノスアブ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である低地の自然度が高く、空中湿度が高い環境はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ハチモドキハナアブ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の発生環境である里山環境はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クロカタビロオサムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である自然度の高い広葉樹林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
昆虫類	マイマイカブリ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある広葉樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林地の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林及び造成森林を生息環境として利用することが考えられることから、生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(16) 重要な種の予測結果

種名	影響要因		影響の概要	
	工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
セアカオサムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である草原、疎林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ヒトツメアオゴミムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である水田の畦、管理された林床はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
スナハラゴミムシ	×	×	準対象事業実施区域には本種の生息環境である河川敷や池沼の岸辺、湿地、水田周辺などの湿性草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
アイヌハンミョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川敷の砂や小石のある河原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ホソハンミョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山地や河川敷の草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ナミハンミョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である裸地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
アリスアトキリゴミムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川敷や高原はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
クロゲンゴロウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である池沼、湿原などはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ゲンゴロウ	×	×		
コガタノゲンゴロウ	×	×		
マルガタゲンゴロウ	×	×		
シマゲンゴロウ	×	×		
マダラシマゲンゴロウ	×	×		
マルケシゲンゴロウ	×	×		
ケシゲンゴロウ	×	×		
ヒメケシゲンゴロウ	×	×		
コウバツブゲンゴロウ	×	×		
ニセルイスツブゲンゴロウ	×	×		
ルイスツブゲンゴロウ	×	×		
シャープツブゲンゴロウ	×	×		
キベリマメゲンゴロウ	×	×		
オオヒメゲンゴロウ	×	×		
オオミズスマシ	×	×		
ミズスマシ	×	×		
クロホシコガシラミズムシ	×	×		
キイロコガシラミズムシ	×	×		
マダラコガシラミズムシ	×	×		
コガシラミズムシ	×	×		
スジヒラタガムシ	×	×	現地調査において準対象事業実施区域内（改変区域）で1個体が確認された。本種については区域外にも生息環境（山間部の池や水田）があり、個体としての移動能力も有することから、生息環境への影響は小さいと予測する。	
ミユキシジミガムシ	×	×	現地調査において準対象事業実施区域外で1個体が確認された。準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間部の池や水田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
コガムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である池沼、湿原などはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
エゾコガムシ	×	×		
ガムシ	×	×		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(17) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	ヤマトモンシデムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である低地、市街地周辺ではないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオクワガタ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるコナラ林の分布は狭い範囲であることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヒラタクワガタ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるコナラ林の分布は狭い範囲であることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アカマダラコガネ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である雑木林はなく、樹林はほぼアカマツ林及びスギ、ヒノキ林であることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	マルツヤマグソコガネ	○	×	本種はシカ糞で見つかることが多く、準対象事業実施区域内をシカが利用している可能性があり、シカが生息する可能性がある準対象事業実施区域の樹林が消失すると予測する。	
	ヤマトエンマコガネ	×	×	伊賀のレッドデータブックによると、北部で10年前に確認されているが、最近では確認されていない、とされている。本種はシカ、ウシなどの糞を好むが、準対象事業実施区域内には牛の放牧地や農耕地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	施設の供用後にはフェンスの設置によりシカは準対象事業実施区域を利用できなくなるが、周辺にはシカが利用可能な樹林が広がっていることから、施設の供用による影響は小さいと予測する。
	キョウトアオハナムグリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるシイ・カシの古木が残る森はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヘリトゲコブスジコガネ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である河川敷や人里近くに残された緑地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	タマムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるエノキ・ケヤキ・サクラ・カシ類はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クロコモンタマムシ(ヤノコモンタマムシ)	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である道路法面及びヤマナラシ群落はないことから生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クロマダラタマムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるエノキ林及び古木はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
ヒメボタル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である広葉樹林は狭い範囲でしかなく、また、管理されたスギ・ヒノキ林はなく、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(18) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	マルクビツチハンミョウ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である里山の手入れされた草地や河川堤防の法面はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヘリハネムシ	×	×	準対象事業実施区域は自然度の良好な森林ではないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヨコヤマヒゲナガカミキリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるイヌブナ林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クビアカハナカミキリ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性があるアカマツ林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境であるアカマツ林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	ヨツボシカミキリ	×	×	本種の寄主植物は、クリ、コナラ、アカガシなど各種広葉樹とされているが、準対象事業実施区域は、ほとんどがアカマツ林であることから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	モモグロハナカミキリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である山間部の潤湿な草地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キンイロネクイハムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるヤマトミクリが生育するような溜池はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ガガブタネクイハムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ツヤネクイハムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溜池、低湿地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	カギアシゾウムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿性または水生植物が生育する池沼はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ババスゲヒメゾウムシ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である湿地や湿地化した放棄水田はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ホシアシプトハバチ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境であるエノキ林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(19) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
昆虫類	ナシアシプトハバチ	×	×	本種の食樹はサクラ、ボケ、ナシであるが、準対象事業実施区域は、ほとんどがアカマツ林であることから、本種の生息環境少ないと考えられ、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ケブカツヤオオアリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である雑木林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	モリシタカギバラアリ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である雑木林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	モンスズメバチ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	ニッポンハナダカバチ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である砂地の裸地はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	フクイアナバチ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の餌資源となる、ハネナシコロギスが生息するような雑木林はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	クロマルハナバチ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(20) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
クモ類	ワスレナグモ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である神社や城址などはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キノボリトタテグモ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である寺社境内の古木はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ユカタヤマシログモ	×	×	本種の主な生息環境は人家であるが、準対象事業実施区域内には人家はなく生息環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ヤマトホラヒメグモ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である洞窟、暗い溪流の大岩の隙間はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	キジロオヒキグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	ニシキオニグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	オニグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	コガネグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	トゲグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	ナカムラオニグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	イサゴコモリグモ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である川原や溪流の岸辺、海岸はないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	シノビグモ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である溪流の湿った下層のシダ類などはないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オビジガバチグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。

注) 影響要因: 「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(21) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
クモ類	ナガイツツグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	アワセグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	アシナガカニグモ	○	×	工事の実施により準対象事業実施区域内の本種が生息する可能性がある樹林が消失することにより生息環境が減少すると予測する。	主な生息環境である樹林の一部が改変されるが、準対象事業実施区域の残置森林を生息環境として利用することが考えられることから事業の実施に伴う生息環境への影響は小さいと予測する。
	イトグモ	×	×	本種の主な生息環境は人家であるが、準対象事業実施区域内には人家はなく生息環境がないことから、生息の可能性は低いと考えられる。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(22) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
淡水貝類・陸産貝類	マルタニシ	×	×	準対象事業実施区域内を流れる水域はコンクリート三面張りの水路であり、水深も数センチ程度であることから、淡水貝類の重要な種が生息する可能性は低いと考えられる。また、また、工事中の濁水の発生防止を行い、下流河川への濁水の排水による流入を防止する。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	オオタニシ	×	×		
	クロダカワニナ	×	×		
	モノアラガイ	×	×		
	ナガオカモノアラガイ	×	×		
	ハゲギセル	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である大径木の朽木はなく、生息の可能性は低いと考えられることから、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	スジキビ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である谷部の沢沿いなどの湿潤な自然林はなく、生息の可能性は低いと考えられることから、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	シメクチャマイマイ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である谷部の湿潤かつ良好な自然林はなく、生息の可能性は低いと考えられることから、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
クチマガリマイマイ	×	×	準対象事業実施区域内には、本種の生息環境である平野、丘陵から低山にかけての常緑広葉樹を交えた比較的乾燥した二次林的環境は少ないと考えられることから、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(23) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
淡水貝類・陸産貝類	イブキクロイワマイマイ	×	×	準対象事業実施区域内には本種の生息環境である自然林及び里山環境はなく、生息の可能性は低いと考えられることから、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	ドブガイ	×	×	準対象事業実施区域内を流れる水域はコンクリート三面張りの水路であり、水深も数センチ程度であることから、淡水貝類の重要な種が生息する可能性は低いと考えられる。また、工事中の濁水の発生防止を行い、下流河川への濁水の排水による流入を防止する。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	マツカサガイ	×	×		
	トンガリササノハガイ	×	×		
	ドブシジミ	×	×		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

表 6.8.4-2(24) 重要な種の予測結果

分類	種名	影響要因		影響の概要	
		工事	存在・供用	工事の実施	施設存在・供用
魚類	スナヤツメ	×	×	準対象事業実施区域内を流れる水域はコンクリート三面張りの水路であり、水深も数センチ程度であることから、魚類の重要な種が生息する可能性は低いと考えられる。また、工事中の濁水の発生防止を行い、下流河川への濁水の排水による流入を防止する。したがって、本種への生息環境への影響は小さいと予測する。	
	アブラボテ	×	×		
	イチモンジタナゴ	×	×		
	ニッポンバラタナゴ	×	×		
	カワバタモロコ	×	×		
	ズナガニゴイ	×	×		
	イトモロコ	×	×		
	ドジョウ	×	×		
	アジメドジョウ	×	×		
	ホトケドジョウ	×	×		
	アカザ	×	×		
	サツキマス (アマゴ)	×	×		
	ミナミメダカ ^{注3)}	×	×		
	カジカ	×	×		

注) 影響要因：「○」影響が考えられる 「×」著しい影響は考えられない

(2) 環境保全措置

(a) 環境保全措置の検討項目

工事の実施及び施設の供用により陸上動物の生息環境及び重要な種への影響が予測されたとこから、環境保全措置を検討した。

環境保全措置の検討項目は表 6.8.4-3 に示すとおりである。

なお、三重県農林水産部みどり共生推進課との協議により、**昆虫について 2024 年春季に現地調査を実施した。**

表 6.8.4-3 環境保全措置の検討結果

対象項目	環境保全措置	効果
工事の実施	<ul style="list-style-type: none">・ 現地調査で確認された重要種に対し、必要に応じて移設等の環境保全措置を行う・ 樹木の伐採範囲の計画順守・ 早期緑化・ 低騒音・低振動型の重機の使用・ 工事中の濁水発生の防止	<p>移設により個体群の生息が維持される。</p> <p>伐採による影響を抑制できる。 生息環境の不要な改変が抑制され残置森林が保全される。</p> <p>植生の回復により生息環境が復元される。 準対象事業実施区域の生息環境のかく乱を低減できる。</p> <p>下流河川への濁水の排水による流入を防止する。</p>
施設の存在・供用	<ul style="list-style-type: none">・ 供用時の排水対策措置	<p>下流河川への濁水の排水による流入を防止する。</p>

(b) 環境保全措置の検証及び整理

各環境保全措置の検証及び整理の結果は、表 6.8.4-4 及び表 6.8.4-5 に示すとおりである。

表 6.8.4-4 環境保全措置の検証及び整理の結果（工事の実施）

環境保全措置の対象	陸生動物の生息環境 陸生動物の重要な種
環境保全措置	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地調査で確認された重要種に対し、必要に応じて移設等の環境保全措置を行う ・ 樹木の伐採範囲の順守 ・ 早期緑化 ・ 低騒音型・低振動型の重機の使用 ・ 工事中の濁水発生防止
実施主体	事業者
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改変区域内で確認された重要種のうち、ハッチョウトンボについては、飛翔能力が弱く、生息環境が限定的と考えられるため、工事中に準対象事業実施区域外の適切な生息環境に移設する。 ・ 工事中、周辺動物の生息環境保全のため、必要以上に樹木を伐採することがないよう、残置森林の範囲を明示し、周知徹底する。 ・ 早期緑化の際は、地域の在来種を選定する。 ・ 重機の機種選定については、低騒音型、低振動型を使用する。 ・ 工事の濁水の発生を防止するため、土工事に先行して仮設沈砂池を設置し、土工事の進捗に合わせて調整池を仮設調整池として利用開始する。土工事の際は必要に応じて土砂流出防止柵等を設置する。工事中、調整池の排水工には濁水ろ過フィルターを設置し、場外への土砂及び濁水の流出防止に努める。
実施期間	工事期間中
実施範囲	準対象事業実施区域
環境保全措置の効果	準対象事業実施区域及びその周囲の陸生動物及び重要な種の生息環境への影響が低減又は代償される。
環境保全措置の効果の不確実性の程度	実施可能な措置であり、実施に関する不確実性は低い。
実施に伴う他の環境項目への影響	環境保全措置の内容を工事内容に反映させることは十分に可能であり、環境保全措置による不確実性は小さいと考えられる。
環境保全措置の実施に伴い生じるおそれがある環境への影響	特になし

表 6.8.4-5 陸生動物の環境保全措置の内容（施設の供用）

環境保全措置の対象	陸生動物及びそれらの生息環境 陸生動物の重要な種
環境保全措置	排水対策措置
実施主体	事業者
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理の際の草刈りは人手での作業とし、農薬は使用しない。 ・ パネル洗浄の際は水及びブラシでの洗浄とし、薬品を使用しない。やむを得ず薬品を使用する際は、土中に浸透しないよう処置を行い作業する。
実施期間	供用期間中
実施範囲	準対象事業実施区域
環境保全措置の効果	準対象事業実施区域及びその周囲の陸生動物及び重要な種への生息環境への影響が低減される。
効果の不確実性の程度	実施可能な措置であり、実施に関する不確実性は低い。
実施に伴う他の環境項目への影響	環境保全措置の内容を施設の供用後に実施することは十分可能であり、環境保全措置による不確実性は小さいと考えられる。
環境保全措置の実施に伴い生じるおそれがある環境への影響	特になし

(3) 評価

工事の実施、太陽光発電設備の存在・供用に伴う陸上動物への影響については、本事業の実施により、陸生動物及び生息環境、重要な種に対して影響が予測された。環境保全対策として、以下の項目を実施する。

(a) 工事の実施

- ・重要な種への対応
- ・木の伐採範囲の順守
- ・早期緑化
- ・低騒音型・低振動型の重機の使用
- ・工事中の濁水発生防止

(b) 施設の存在・供用

- ・維持管理の際の草刈りは人手での作業とし、農薬は使用しない。
- ・パネル洗浄の際は水及びブラシでの洗浄とし、薬品を使用しない。やむを得ず薬品を使用する際は、土中に浸透しないよう処置を行い作業する。

以上の環境保全対策を実施することで、事業者の実行可能な範囲で対策が講じられ、事業の実施に伴う陸上動物への影響は低減措置が講じられていると評価する。